



コープ あした 未来の 森づくり 基金

北海道洞爺湖サミットの開催された2008年、コープさっぽろは組合員一人ひとりの環境への意識が森づくりへとつながることを目指し、コープ未来の森づくり基金(以下、「あすもり」)を設立しました。コープさっぽろのお店でレジ袋を辞退すると0.5円が基金に積み立てられ、北海道の植樹活動や森づくり団体への助成に使われる仕組みです。

生活協同組合らしい森づくり活動とするために、組合員・職員に加えて、森づくり活動家・学識経験者が参加する運営委員会を設置し、以下の目的を設定しています。

1. 森林づくりを通じてCO₂の削減と地球温暖化防止をめざします
2. 植樹から木の活用までを視野に入れた、循環型の森林づくりを促進します
3. 参加型の森林づくりにより環境や自然に対する関心を深めます
4. 森林・木材に関する調査・研究を行います
5. 植樹や育樹など森づくりを進める団体の活動を支援します

基金の理念となる目的を1に掲げ、広い範囲の取り組みを組合員参加で行う森づくり(2,3)と、森に関わる調査研究や団体助成(4,5)を中心的な活動としています。森づくりの中では、「ほっかいどう企業の森林づくり」制度を通じて自治体と協定を結び植樹活動を全道16か所で展開してきました。北海道ぎょれんの「お魚殖やす植樹運動」とも協力し、19年度までに10万本を超える植樹を行っています。参加者は、子どもと一緒に育って欲しいと願う赤ちゃん連れ世代から、次世代に豊かな森を残した

というシニア層まで幅広くこれまでに3.7万人を超えています。団体助成は、植樹や育樹といった直接的な森づくりだけでなく、木質バイオマスなど資源の循環利用や低炭素社会の構築、食害で森林に影響を与えるエゾシカ管理や食肉利用、アートと森づくりの融合、森のようちえんなど多様な方面で活動する団体を対象としています。上限100万円の高額助成では新たな活動の支援を行い、10万円の少額助成では応募書類や報告を簡略化することで小規模団体も含めた支援を行う特徴をもたせています。これら2種の助成で、20年度までに7.3千万円を支援してきました。

設立から12年の間には、植樹活動と団体助成の他にも、広く森づくりへの関心を高める活動を行ってきました。森と人をつなぐ目的のレポート誌「モリイク」では、道内で活躍される方の協力により、森の神秘を感じさせる写真やエッセイ、森の知識を伝えるマンガなどを配信しています。札幌市円山動物園を舞台としたどんぐりプロジェクトでは、森を歩き動物を見ながら、子どもたちに森を守り育てる心を伝えていきます。2019年には、コープさっぽろのリサイクル施設「エコセンター」の敷地内に、森づくりや基金のことを紹介する「あすもり資料室」をオープンしました。大きな絵本や解説パネルなどで森づくりの大切さを知ることができるほか、森や生き物の本をたくさん集めた図書室も設置し、環境教育や木育活動の拠点としています。

「あすもり」の活動以外にも、コープさっぽろではCO₂排出削減・循環型の事業モデ

ルづくりを行ってきました。2008年には道産間伐材(下川町産)を割り箸に使用し始め、2010年には日本で初めての大型木造スーパーマーケット(西宮の沢店)をオープンさせました。室蘭工業大学との共同研究の成果を、店舗設計から冷蔵ケースなど細部に至るまでふんだんに盛り込んだエコな店舗になっています。2012年には大型木造スーパーマーケット2号店(いしかわ店)をオープンさせ、店舗で生まれた食物残渣を七飯町に設置したバイオガスプラントで堆肥化し近隣農地で野菜を育てる循環モデルとしています。堆肥化の過程で産まれるバイオガスは発電に利用し、FIT電力として北海道の電力網に供給しています。

コープさっぽろは「北海道で生きることを誇りと喜びにする」ことを理念として掲げ、その方法として「つなぐ」を合言葉としています。「あすもり」の活動は、森づくりを通じて北海道で生きる喜びをつくる活動です。組合員、森づくり団体、活動家など北海道に住む皆さんの想いを、これからもつないでいきます。50年後、100年後にも、各地域で誇りと喜びある暮らしを続けるように。

生活協同組合コープさっぽろ
理事長

おみ ひこみ
大見 英明さん



1958年、愛知県生まれ。北海道大学教育学部卒業後、コープさっぽろ入協。2002年に理事、商品本部長に就任。常務理事、専務理事を経て、2007年から現職。日本生活協同組合連合会常任理事、日本流通産業株式会社代表取締役副社長。